

# 沖森卓也教授 自筆略譜及び主要研究業績

## 略譜

### 〔誕生〕

一九五二年七月二〇日 三重県上野市中町三〇一四番地（現、伊賀市上野中町）に、父 敏彦、母 佐紀子の長男として生まれる（祖父 直三郎、祖母 きみ）

### 〔学歴〕

一九五九年四月 三重県上野市立西小学校入学  
一九六五年三月 同 卒業  
一九六五年四月 三重県上野市立桃青中学校入学  
一九六八年三月 同 卒業  
一九六八年四月 三重県立上野高等学校入学  
一九七一年三月 同 卒業  
一九七一年四月 東京大学文科三類入学  
一九七三年四月 東京大学文学部第三類国語国文学専修課程進学

一九七五年三月 同 卒業

一九七五年四月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程修士課程入学

一九七七年三月 同 修了

〔学位〕

一九九九年四月一九日 博士（文学） 東京大学 第14298号

論文名『日本上代における表記と文体に関する研究』

〔職歴〕

一九七七年四月 東京大学文学部助手（一九七九年三月まで）

一九七九年四月 白百合女子大学文学部専任講師（一九八三年三月まで）

一九八三年四月 白百合女子大学文学部助教（一九八五年三月まで）

一九八五年四月 立教大学文学部助教（一九九〇年三月まで）

一九九〇年四月 立教大学文学部教授（二〇一八年三月まで）

二〇一八年三月 立教大学退職

〔非常勤・集中講義〕

一九七八年四月 白百合女子大学非常勤講師（一九七九年三月まで）

- 一九七九年四月 東洋大学非常勤講師（一九八二年三月まで）
- 一九八一年四月 実践女子大学非常勤講師（一九八五年三月まで）
- 一九八三年四月 東洋大学非常勤講師（一九八四年三月まで）
- 一九八四年四月 大妻女子大学非常勤講師（一九八四年三月まで）
- 一九八八年四月 聖心女子大学非常勤講師（一九八八年三月まで）
- 一九八五年四月 東洋大学非常勤講師（一九九四年三月まで）
- 学習院女子短期大学非常勤講師（一九八七年三月まで）
- 一九八八年四月 共立女子短期大学非常勤講師（一九九一年三月まで）
- 一九八九年四月 聖心女子大学非常勤講師（一九九三年三月まで）
- 学習院女子短期大学非常勤講師（一九九〇年三月まで）
- 一九九〇年四月 大正大学非常勤講師（一九九四年三月まで）
- 一九九一年四月 日本女子大学非常勤講師（一九九三年三月まで）
- 一九九二年九月 北京日本学研究所センター派遣教授（一九九二年一月まで）
- 一九九五年四月 成蹊大学非常勤講師（一九九六年三月まで）
- 東洋大学非常勤講師（二〇〇一年三月まで）
- 大正大学非常勤講師（一九九九年三月まで）
- 一九九六年四月 東京女子大学非常勤講師（一九九九年三月まで）
- 聖心女子大学非常勤講師（一九九九年三月まで）

- 一九九七年四月 駿河台大学非常勤講師（二〇〇一年三月まで）
- 一九九九年四月 一橋大学大学院非常勤講師（二〇〇一年三月まで）
- 上智大学非常勤講師（二〇〇一年三月まで）
- 二〇〇〇年四月 成蹊大学非常勤講師（二〇〇一年三月まで）
- 大正大学非常勤講師（二〇〇一年九月まで）
- 二〇〇二年九月 大正大学非常勤講師（二〇〇七年三月まで）
- 二〇〇五年四月 東京女子大学非常勤講師（二〇〇六年三月まで）
- 二〇〇七年四月 上智大学非常勤講師（二〇〇八年三月まで）
- 二〇〇九年三月 高麗大学校人文大学非常勤講師（二〇〇九年三月まで）
- 二〇一〇年四月 国士舘大学大学院非常勤講師（現在に至る）
- 二〇一一年四月 早稲田大学大学院非常勤講師（二〇一二年三月まで）
- 二〇一二年四月 熊本県立大学非常勤講師（二〇一三年三月まで）
- 二〇一五年四月 東京大学大学院非常勤講師（二〇一五年八月まで）
- 二〇一六年九月 東京大学大学院非常勤講師（二〇一七年一月まで）

【学内活動】

- 一九九七年四月 立教大学大学院文学研究科日本文学専攻主任（一九九九年三月まで）
- 二〇〇四年四月 立教大学文学部日本文学科長（二〇〇六年三月まで）

- 二〇一〇年七月 立教学院評議員（二〇一四年六月まで）
- 二〇一三年四月 立教大学文学部長（二〇一五年三月まで）

〔学外活動〕

- 一九九二年六月 語彙・辞書研究会運営委員
- 二〇〇四年四月 国文学研究資料館運営委員（二〇〇六年三月まで）
- 二〇〇七年二月 文化審議会臨時委員 国語分科会漢字小委員会（二〇一一年二月）
- 二〇一三年二月 文化審議会臨時委員 国語分科会漢字小委員会（副主査）（二〇一四年二月まで）
- 二〇一三年四月 金田一賞選考委員（現在に至る）
- 二〇一四年二月 文化審議会臨時委員 国語分科会漢字小委員会（主査）（二〇一六年二月まで）
- 二〇一六年二月 文化審議会委員 国語分科会国語課題小委員会（主査）（現在に至る）
- 二〇一八年四月 日本語学会評議員（現在に至る）
- 二〇一八年六月 語彙・辞書研究会代表（現在に至る）

〔講演・シンポジウムなど〕

（国内）

明治初期の日本語の中の時間―否定の過去形と推量形を中心に―

一九九六年十二月一日 立教国際シンポジウム（立教大学）

日本語表記の歩み

一九九八年 五月一二日 昭和女子大学

上代語表記とその背景

二〇〇〇年 二月 二日 國學院大学

上代の文体―「和文体」をめぐって―

二〇〇二年 一月 二日 東京大学国語国文学会

(シンポジウム「文体」)

日本語の誕生―日本古代の文字表記―

二〇〇三年 七月一九日 東アジアの歴史を考える会

万葉歌の表記と万葉仮名

二〇〇三年 一月二二日 さいたま文学館

現代生活と辞書

二〇〇六年 一月二五日 語彙辞書研究会第30回研究発表会

『古語拾遺』をめぐって

二〇〇七年 七月 九日 白百合女子大学

近年の国語系辞書、その周辺と動向

二〇一一年 一月一二日 語彙辞書研究会第40回研究発表会

漢字で日本語を書き記すということ

二〇一二年 一〇月一三日 三重県立上野高等学校同窓会記念講演

日本語の言葉はどうやって生まれてきたのか

二〇一三年 七月二七日 TAMA市民大学

日本語表記の黎明―文化の観点から―

二〇一六年 一月 九日 関西外国語大学

(国外)

日本語の歴史―近代語を中心に

一九九九年 九月一七日 嶺南大学校

日本語研究の展望

二〇〇一年 一月二三日 大邱カトリック大学校

現代日本語の成立

二〇〇一年 二月 六日 ソウル女子大学校

- |                  |            |     |                     |
|------------------|------------|-----|---------------------|
| 神仙思想と古代文学        | 二〇〇一年一月二二日 | 台湾  | 輔仁大学                |
| 古典の世界―男の夢・女のロマン― | 二〇〇一年二月二四日 | 台湾  | 輔仁大学                |
| 現代語文法の成立         | 二〇〇二年三月三〇日 | 韓国  | 韓国日本語学会（誠心女子大学校）    |
| 日本語学・日本文学の研究法    | 二〇〇二年六月二四日 | 高麗  | 高麗大学校               |
| 古代日本の文字法         | 二〇〇二年五月二五日 | 口訣学 | 口訣学研究会（ソウル大学ビル会議室）  |
| 日本語の意味と辞書記述      | 二〇〇四年一月二三日 | ソウル | ソウル女子大学校            |
| いわゆる形容動詞をめぐる     | 二〇〇五年九月二三日 | 韓国  | 韓国日本語日文学会（ソウル女子大学校） |
| 漢字の受容とその後の日本語    | 二〇〇六年六月一七日 | 韓国  | 韓国日本語日文学会（清州大学校）    |
| 形容動詞について         | 二〇〇六年九月一七日 | 西安  | 西安交通大学              |
| 近現代日本の漢字政策       | 二〇〇六年一月一日  | 大韓  | 大韓日本語日文学会（靈山大学校）    |
| 古代東アジアにおける漢文の変容  | 二〇〇七年七月    | 韓日  | 韓日ワークシヨップ           |
| 漢字の伝播と日本語史       | 二〇〇七年九月一五日 | 山東  | 山東大学                |
| ナ形容詞とノ形容詞        | 二〇〇七年九月二〇日 | 河南  | 河南大学                |
| 万葉仮名             | 二〇〇八年二月一八日 | ソウル | ソウル大学校言語学研究所        |
| 万葉歌解釈の方法と実際      | 二〇〇八年二月二〇日 | 韓日  | 韓日ワークシヨップ           |
| 漢語の日本的展開         | 二〇〇八年九月二〇日 | 杭州  | 杭州財経大学              |

- 辞書の意味記述  
漢字と日本人  
日本における『論語』の受容  
現代日本語への軌跡  
助詞の諸問題  
『古事記』の用字法  
連用修飾節について  
助詞の諸問題  
現代語文法の成立  
日本語辞書の現状と未来  
古代の漢語  
日本におけるWEB漢字辞典  
言葉と文化  
現代語文法の成立  
漢字文化圏としての韓国語と日本語  
高句麗語と日本語
- 二〇〇八年一〇月二四日 ウイデアアタマ大学（インドネシア）  
二〇〇八年一〇月二四日 ウイデアアタマ大学（インドネシア）  
二〇〇八年十一月七日 浸会大学（香港）  
二〇〇九年五月一六日 韓国日本語教育学会（ソウル国際交流基金）  
二〇〇九年九月二日 西南交通大学  
二〇一〇年九月五日 山西大学  
二〇一〇年九月七日 山西師範大学  
二〇一一年九月一〇日 黒竜江大学  
二〇一二年三月二九日 中央大学校（韓国）  
二〇一二年三月三〇日 高麗大学校日本研究センター  
二〇一二年九月六日 広州外語外貿大学  
二〇一三年二月一日 檀国大学校（韓国）第一九回辞書学国際会議  
二〇一三年六月八日 中央大学校（韓国）  
二〇一三年九月二日 済州大学校  
二〇一四年六月二七日 リュブリアナ大学（スロベニア）  
二〇一四年八月三〇日 高麗大学校  
（イ・ハンソップ教授退職記念シンポジウム）  
二〇一五年八月二九日 ウイデアアタマ大学（インドネシア）
- ことばに受け継がれる心の文化

- 語感という価値  
 日本語と日本文化  
 接続語について  
 古代における新羅と日本の文字表記  
 仮名の源流  
 日本語教育と言語コミュニケーション
- 二〇一五年 九月 一日 アイラング大学（インドネシア）  
 二〇一五年 一月二〇日 大邱カトリック大学校  
 二〇一六年 九月 七日 集美大学（中国）  
 二〇一七年 一月二四日 ソウル女子大学  
 二〇一七年 一月 七日 中国人民大学  
 二〇一八年 六月一九日 韓国日語日文学会（大邱大学校）

### 主要業績

#### 〔単著〕

- 東京国立博物館蔵本 延喜式祝詞総索引 一九九五年 一月 汲古書院  
 日本古代の表記と文体 二〇〇〇年 五月 吉川弘文館  
 日本語の誕生―古代の文字と表記― 二〇〇三年 四月 吉川弘文館  
 日本古代の文字と表記 二〇〇九年 七月 吉川弘文館  
 はじめて読む日本語の歴史―うつりゆく音韻・文字・語彙・文法―  
 二〇一〇年 三月 ベレ出版  
 二〇一一年 一月 ベレ出版
- 日本の漢字―一六〇〇年の歴史―  
 文章が変わる接続語の使い方の論理は接続語で決まる

日本語全史

二〇一六年一二月 ベレ出版

二〇一七年 四月 筑摩書房(ちくま新書一二四九)

〔共著〕

歌経標式―注釈と研究―

一九九三年 五月 桜楓社(佐藤信・平沢竜介・矢嶋泉と共著)

上代木簡資料集成

一九九四年 二月 おうふう(佐藤信と共著)

藤氏家伝 鎌足・貞慧・武智麻呂伝

注釈と研究

一九九九年 五月 吉川弘文館(佐藤信・矢嶋泉と共著)

上宮聖徳法王帝説―注釈と研究―

二〇〇五年 三月 吉川弘文館(佐藤信・矢嶋泉と共著)

出雲国風土記

二〇〇五年 四月 山川出版社(佐藤信・矢嶋泉と共著)

播磨国風土記

二〇〇五年一〇月 山川出版社(佐藤信・矢嶋泉と共著)

図解日本語

二〇〇六年 九月 三省堂(木村義之・陳力衛・山本真吾と共著)

常陸国風土記

二〇〇七年 四月 山川出版社(佐藤信・矢嶋泉と共著)

豊後国風土記 肥前国風土記

二〇〇八年 二月 山川出版社(佐藤信・矢嶋泉と共著)

歌経標式―影印と注釈―

二〇〇八年一二月 おうふう(佐藤信・平沢竜介・矢嶋泉と共著)

図解日本の文字

二〇一一年 五月 三省堂(笹原宏之・常盤智子・山本真吾と共著)

図解日本の語彙

二〇一一年 九月 三省堂

(木村義之・田中牧郎・陳力衛・前田直子と共著)

古代氏文集―住吉大社神代記・古語拾遺・新撰龜相記・高橋氏文・秦氏本系帳―

新校古事記

二〇一二年 四月 山川出版社（佐藤信・矢嶋泉と共著）  
二〇一五年十一月 おうふう（佐藤信・矢嶋泉と共著）

風土記―常陸国・出雲国・播磨国・豊後国・肥前国―

二〇一六年 一月、山川出版社（佐藤信・矢嶋泉と共著）

〔編著（単編）〕

日本語史

一九八九年 三月 桜楓社

資料 日本語史

一九九一年 二月 桜楓社

図説 日本の辞書

二〇〇八年一〇月 おうふう

日本語史概説

二〇一〇年 四月 朝倉書店（日本語ライブラリー）

日本語概説

二〇一〇年 四月 朝倉書店（日本語ライブラリー）

古典文法の基礎

二〇一二年 三月 朝倉書店（日本語ライブラリー）

語と語彙

二〇一二年 四月 朝倉書店（日本語ライブラリー）

漢文資料を読む

二〇一三年一〇月 朝倉書店（日本語ライブラリー）

図説 近代日本の辞書

二〇一七年 九月 おうふう

歴史言語学の射程

二〇一八年十一月 三省堂

〔編著（共編）〕

日本語表現法

一九九八年 四月 三省堂（半沢幹一と共編）

文字と古代日本（全五巻）

二〇〇四年二月～二〇〇六年二月 吉川弘文館

（平川南・栄原永遠男・山中章と共編）

日本語表現法 改訂版

二〇〇七年一〇月 三省堂（半沢幹一と共編）

品詞別学校文法講座（全八巻）

二〇一三年一月～二〇一六年四月 明治書院

（中山緑朗・飯田晴巳（監修） 山本真吾・木村義之・木村一と共編）

中国語と日本語

二〇一四年 五月 朝倉書店（日本語ライブラリー）（蘇紅と共編）

韓国語と日本語

二〇一四年 九月 朝倉書店（日本語ライブラリー）（曹喜澈と共編）

ことばの借用

二〇一五年 二月 朝倉書店（日本語ライブラリー）（阿久津智と共編）

文章と文体

二〇一五年 五月 朝倉書店（日本語ライブラリー）（山本真吾と共編）

日本語の音

二〇一七年 四月 朝倉書店（日本語ライブラリー）（木村一と共編）

漢語

二〇一七年一〇月 朝倉書店（日本語ライブラリー）（肥爪周二と共編）

漢字

二〇一七年一〇月 朝倉書店（日本語ライブラリー）（笹原宏之と共編）

〔共編（辞典・事典）〕

日本辞書辞典

一九九六年 五月 おうふう（倉島節尚・加藤知己・牧野武則と共編）

ベネッセ表現読解国語辞典

二〇〇三年 五月 ベネッセコーポレーション（中村幸弘と共編）

- 三省堂五十音引き漢和辞典 二〇〇四年 二月 三省堂（三省堂編修所と共編）  
 大きな活字の三省堂五十音引き漢和辞典 二〇〇四年 六月 三省堂（三省堂編修所と共編）  
 三省堂常用漢字辞典 二〇一三年 五月 三省堂（三省堂編修所と共編）  
 三省堂五十音引き漢和辞典 第二版 二〇一四年 二月 三省堂（三省堂編修所と共編）

〔監修〕

語源 ことばのはじめビジュアル事典ことばについて考える！ことばが豊かになる！（全六冊）

- 写真で読み解く語源大辞典 二〇一一年 二月 学研教育出版  
 二〇一二年 二月 あかね書房

〔分担執筆〕

- 高山寺古訓点資料第一 一九八〇年 二月 東京大学出版会  
 （高山寺典籍文書総合調査団編 翻刻・索引分担執筆）  
 法華経音義三種 一九八〇年 九月 汲古書院  
 （築島裕編『古辞書音義集成』 和訓索引担当）  
 孔雀経音義（上）（下） 一九八三年 二月 汲古書院  
 （築島裕編『古辞書音義集成』 索引共同担当）  
 高山寺古辞書資料第二 一九八三年 二月 東京大学出版会

(高山寺典籍文書綜合調査団編 『華嚴傳音義』掲出字索引共同担当)

研究資料日本古典文学 第一二巻 文法付辞書

一九八三年 七月 明治書院(「形容詞」ほかの項目執筆)

国語学

一九八四年一〇月 学術図書出版社

(宇野善方編 第七章 国語史・国語学史執筆)

研究資料日本文法 第七巻 助辞編(三) 一九八五年 四月 明治書院(「助詞総覧1格助詞1」の章執筆)

高山寺古訓点資料第三 一九八六年 二月 東京大学出版会

(高山寺典籍文書綜合調査団編 第六巻訓読担当)

『続日本紀』(一)～(五) 一九八九年三月～九八年二月 岩波書店

(新日本古典文学大系)(訓読文共同執筆)

論文(表題の後に、『日本古代の表記と文体』(二〇〇〇)に所収した論文には\*を、『日本古代の文字と表記』(二〇〇九)に所収した論文には\*\*を付した)

〔雑誌〕

続日本紀宣命の用字と文体\* 一九七六年 九月 『国語と国文学』五三一―九

上代文献における「所」字について\*\* 一九七八年 三月 『国語と国文学』五五―三

上代文献における「有・在」字\*\* 一九七九年 六月 『国語と国文学』五六―六

延久鈔史記の訓読について―助字を中心とした訓法と字音―

宣命語と万葉語

平安初期宣命の文辞について\*

格助詞ユ、ユリ、ヨ、ヨリについて

上代日本語に現れた音変化について

観智院本類聚名義抄の和音の声調

古日本語の母音体系

世尊寺本『字鏡』の仮名表記の字音注

万葉集訓読考―人麻呂歌集歌四首―

万葉集はどのように歌われていたか

古語拾遺の用字

琴歌譜の音の高低に関する符号について

形容詞の成立

古代日本語アクセントの史的形成

日本語の史的形成

上代の文字法\*\*

一九七九年二月『百合女子大学研究紀要』一五

一九八〇年三月『国文白百合』一一

一九八〇年九月『国語と国文学』五七―九

一九八一年三月『国文白百合』一二

一九八二年三月『国文白百合』一三

一九八二年二月『百合女子大学研究紀要』一八

一九八三年三月『国文白百合』一四

一九八三年二月『百合女子大学研究紀要』一九

一九八四年三月『国文白百合』一五

一九八四年一月『ユリイカ』一六一―一二

(総特集・日本語の伝統と現在を考える)

一九八四年二月『百合女子大学研究紀要』二〇

一九八五年三月『国文白百合』一六

一九八五年三月『日本語学』四―三(特集・形容詞・形容動詞)

(のちに『日本語学』特集テーマ別ファイル 普及版』に再録)

一九八五年二月『立教大学日本文学』五五

一九八六年六月『日本語』七(特集・日本語の文化誌)

一九八七年七月『立教大学日本文学』五八

くりかえし

一九八七年一二月『立教大学日本文学』五九

万葉仮名交り文の成立\*

一九八九年七月『立教大学日本文学』六二

動詞の用法―古典語の複合動詞―

一九九〇年一月『別冊国文学 古典文法必携』三八

万葉仮名文の成立\*

一九九〇年七月『立教大学日本文学』六四

宣命体の成立\*

一九九一年七月『立教大学日本文学』六六

文体の史的的研究に関する覚書\*

一九九二年一月『国語と国文学』六九―七一

(特集…平安時代語研究)

古事記における字順と用字\*

一九九三年一二月『立教大学日本文学』七一

語の出来に関する―考察―文字表記を媒介とする場合―

一九九四年三月『立教大学日本語研究』一

平安初中期の母音体系

一九九五年三月『立教大学日本語研究』二

上代語のオとヲ

一九九六年三月『立教大学日本語研究』三

形容詞語幹の分類―上代語を対象として―

一九九七年三月『立教大学日本語研究』四

現代の辞書で調べる

一九九七年一月『日本語学』一六―二二

(特集…言葉を調べる―現代辞書で調べる―)

語頭の濁音化

一九九八年三月『立教大学日本語研究』五

意味分化とアクセント―動詞アクセントの式の交代を中心に―

一九九九年三月『立教大学日本語研究』六

いろは引き・五十音引き辞典の系譜

二〇〇〇年 二月『しにか』一一―三

(特集…日本の辞書の歩み―最古の辞書から『言海』まで)

万葉集訓読覚書(一)―ニアリとナリ―

二〇〇〇年 三月『立教大学日本語研究』七

「時間」との闘い

二〇〇〇年 五月『言語』二九―五

(特集…辞書をめぐる七つの闘い―辞書戦争の内と外―)

人麻呂歌集とその後の上代表記\*\*

二〇〇〇年十一月『国語と国文学』七七―一一

(特集…《文化資源》としての国文学)

万葉集訓読覚書(二)―二三七七・二四二五・二四五九番歌―

二〇〇一年 三月『立教大学日本語研究』八

国語辞書の成立と近世までの展開

二〇〇一年 四月『悠久』八五(特集…辞書)

円仁著『在唐記』の音韻記述をめぐって

二〇〇二年 八月『島嶼文化』二〇

訓仮名用法の分類

二〇〇二年 三月『立教大学日本語研究』九

古代日本の文字法

二〇〇二年 八月『口訣研究』九

現代語文法の成立

二〇〇二年 九月『日本語学研究』(韓国日本語学会)六

古代韓半島金石文訓読稿―日本上代の漢字文研究のために―

二〇〇三年 三月『立教大学日本語研究』一〇

鉄剣銘・木簡―漢字渡来の風景―\*\*

二〇〇三年一月『国文学 解釈と教材の研究』四八―一四

(特集…古代の環境―文字・ことば・景観)

万葉歌の表記と万葉仮名

二〇〇四年 三月 『立教大学日本語研究』 一

訓仮名の成立\*\*

二〇〇四年 八月 『言語』 三三一—八

(特集…言語にとって文字とは何か)

日本語学・日本文学の研究法

二〇〇五年 三月 『立教大学日本語研究』 一二

播磨国風土記の音韻と表記\*\*

二〇〇六年 三月 『国文学踏査』(大正大学) 一五

いわゆる形容動詞をめぐる

二〇〇六年 三月 『立教大学日本語研究』 一三

梅を愛でる

二〇〇七年 一月 『日本語学』 二六一—(特集…花を愛でる)

漢字の受容とその後の日本語

二〇〇七年 三月 『立教大学日本語研究』 一四

古代の地名表記―上代撰述風土記を中心に―\*\*

二〇〇七年 一月 『国学院雑誌』 一〇八—一一

(特集…日本語学の諸問題)

近現代日本の漢字政策

二〇〇八年 三月 『立教大学日本語研究』 一五

古代東アジアにおける漢文の変容\*\*

二〇〇八年 四月 『口訣研究』 第二〇輯

漢字と日本人

二〇〇九年 三月 『立教大学日本語研究』 一六

日本の国語辞典

二〇〇九年 二月 『中国二』(愛知大学) 三三—

(特集…辞書のゆくえ)

万葉歌解釈の方法と実際

二〇〇〇年 三月 『立教大学日本語研究』 一七

改訂される音訓

二〇一〇年 八月 『日本語学』 二九—一〇

(特集・新しくなる「常用漢字表」とは)

漢和辞典と現代生活

二〇一一年 三月 『立教大学日本語研究』 一八

『古事記』における音仮名ホ・ボ

二〇一二年 二月 『国語と国文学』 八九―一二

記号と文字

二〇一二年 二月 『日本語学』 三〇―二二

八、九世紀の漢語

二〇一二年 三月 『立教大学日本語研究』 一九

漢字で日本語を書き表すということ

二〇一三年 三月 『立教大学日本語研究』 二〇

草仮名とひらがな

二〇一三年一〇月 『日本語学』 三一―一一

(特集・「ひらがな」を問い直す)

言葉と文化

二〇一四年 三月 『立教大学日本語研究』 二二

同訓異字とは

二〇一四年 八月 『日本語学』 三三―一〇 (特集・異字同訓とは)

上代の辞書―『新字』は存在したか

二〇一五年 一月 『悠久』 一三九

風土記の古代史―風土記と地名―

二〇一五年 三月 『立教大学日本語研究』 二二

キリシタンと日本語

二〇一五年一〇月 『悠久』 一四三

(特集・外国人が作った日本語辞書)

日本語はどのように生まれてきたか

二〇一六年 三月 『立教大学日本語研究』 二三

漢字と手書き

二〇一六年一月 『日本語学』 三五―一二

(特集・手書きの字形を考える)

表現読解と国語辞典

二〇一七年 三月 『立教大学日本語研究』 二四

漢字文化圏としての韓国語と日本語 二〇一八年 三月 『立教大学日本語研究』二五  
ことばの時代区分とは何か 二〇一八年 一二月 『日本語学』三七―一三

(特集…日本語史の時代区分)

〔論文集・叢書など〕

続日本紀宣命の表記と文体―称徳期について―\*

一九七七年 九月 『松村明教授還暦記念 国語学と国語史』明治書院

高山寺藏式の訓法―助字を中心として― 一九八〇年 二月 『高山寺古訓点資料第一』東京大学出版会

孔雀経音義について 一九八〇年 一二月 『高山寺典籍文書の研究』東京大学出版会

世尊寺本字鏡の漢字音について 一九八六年 三月 『築島裕還暦記念 国語学論集』明治書院

上代文献における否定詞の用字\*\* 一九八六年 一〇月 『松村明教授古稀記念 国語研究論集』(明治書院)

ナリ活用とタリ活用 一九八七年 四月 『国文法講座』第二卷 明治書院

万葉仮名と文章文体\* 一九八九年 一二月 『万葉集研究』一七(塙書房)

日本語はいかにして書けるようになったか 一九九一年 一月 『争点 日本の歴史』第三卷 新人物往来社

風土記の文体について\* 一九九二年 三月 『小林芳規博士退官記念 国語学論集』汲古書院

万葉集の表記 一九九二年 九月 『和歌文法講座』第二卷 勉誠社

音訓交用について\* 一九九三年 九月 『松村明先生喜寿記念 国語論集』明治書院

続日本紀の述作と表記 一九九五年 六月 『続日本紀』(四) 岩波書店

- 延喜式祝詞の表現とその形成\*  
 一九九五年一〇月『築島裕博士古稀記念 国語学論集』汲古書院
- 万葉集における動詞活用語尾の表記\*  
 一九九六年 六月『山口明穂教授還暦記念 国語学論集』明治書院
- 和文体の成立\*  
 一九九八年 二月『東京大学国語研究室創立百周年記念 国語研究論集』  
 汲古書院
- 子音韻尾の音仮名について\*\*  
 二〇〇〇年 六月『鎌倉時代語研究』二三三
- 人麻呂歌集略体歌の表記の特性\*\*  
 二〇〇一年 六月『書くことの文学』笠間書院
- 尊経閣文庫所蔵『古事記』の訓読  
 二〇〇三年 二月『尊経閣善本影印集成』三〇 八木書店
- 漢字の受容\*\*  
 二〇〇五年 三月『朝倉漢字講座』第一卷朝倉書店
- 出雲国風土記の音韻と表記\*\*  
 二〇〇五年一〇月『築島裕博士傘寿記念 国語論集』汲古書院
- 漢文の受容と訓読\*\*  
 二〇〇六年 一月『文字と古代日本』第五卷 吉川弘文館
- 万葉仮名\*\*  
 二〇〇六年 一月『文字と古代日本』第五卷 吉川弘文館
- 国語辞典の意味記述―語釈の示し方を中心に―  
 二〇〇六年 四月『日本辞書学の構築』おうふう
- 尊経閣文庫所蔵『類聚三代格』の訓点  
 二〇〇六年 八月『尊経閣善本影印集成』三九 八木書店
- 尊経閣文庫所蔵『日本靈異記』の訓点  
 二〇〇七年 三月『尊経閣善本影印集成』四〇 八木書店
- 尊経閣文庫所蔵『日本往生極楽記』の訓点  
 二〇〇七年一〇月『尊経閣善本影印集成』四一 八木書店
- 文字―仮名の発現―  
 二〇〇八年 八月『古典と歴史』二 万葉集を読む』吉川弘文館
- 文字法と用字法  
 二〇一一年 三月『言語変化の分析と理論』おうふう

津田左右吉と国語学

二〇一一年一〇月『資料としての「日本書紀」津田左右吉を読みなおす』

勉誠出版

上代の用字法

二〇一三年 六月『日本語学・日本語教育六 日本語史』J&C出版社

日本におけるWEB漢字辞典

二〇一五年 二月『東アジア漢字辞典』檀国大学校出版部

万葉集の「令」字

二〇一五年 三月『日本語史の研究と資料』明治書院

いわゆる「母音交代」をめぐる

二〇一八年一月『歴史言語学の射程』三省堂

## 口頭発表

上代文献における「所」について―万葉集・続紀宣命を中心として―

一九七七年一〇月 国語学会

心空の法華経音義に関する著作をめぐる

一九八四年 五月 訓点語学会

国語辞典を引くのはどのような時か

一九九四年一月 語彙・辞書研究会

## その他

### 〔辞書〕

日本大百科全書

一九八四年一月 小学館（「上代特殊仮名遣」ほかの項目執筆）

学研 古語辞典

一九八六年 八月 学習研究社（編集委員）

岩波 漢語辞典

一九八七年一月 岩波書店（編集委員）

大辞林

一九八八年一月 三省堂(編集委員)

集英社国語辞典

一九九三年 二月 集英社(編集協力)

暮らしのことは語源辞典

一九九八年 五月 講談社(項目執筆)

日本古典籍書誌学事典

一九九九年 三月 岩波書店(項目執筆)

新小辞林 第五版

一九九九年 八月 三省堂(編集委員)

訓点語辞典

二〇〇一年 八月 東京堂書店(項目執筆)

角川全訳古語辞典

二〇〇二年一〇月 角川書店(編集委員)

歴史学事典 第一五卷

二〇〇八年 六月 弘文堂(「日本語」の項目執筆)

現古辞典

二〇一二年 三月 河出書房新社(項目執筆)

日本語学大事典

二〇一四年一月 朝倉書店(「漢字文化圏」ほかの項目執筆)

日本語学大辞典

二〇一八年一〇月 東京堂出版(「漢字」ほかの項目執筆)

### 〔学界展望〕

国語学(古代語)

一九八〇年一〇月『文学語学』八八(特集…昭和五十四年度国語国文学界の展望)

音韻(史的研究)

一九八八年 八月『国語学』一五三(特集…昭和六一・六二年における国語学界の展望)

国語学(古代語)

一九八九年 三月『文学語学』一二〇(特集…昭和六二年度国語国文学界の展望)

古代語(音韻・文字・表記)

一九九五年 三月『文学語学』一四六(特集…平成五年度国語国文学界の展望)

〔書評・紹介〕

- 〈紹介〉 山口佳紀著 『古代日本語文法の成立の研究』 一九八五年 五月 『言語』 一四―五
- 〈書評と紹介〉 森博達著 『古代の音韻と日本書紀の成立』 一九九二年 九月 『日本歴史』 五三―二
- 〈新刊紹介〉 平川南著 『古代日本の文字世界』 二〇〇〇年二月 『解釈と鑑賞』 六五―二
- 〈書評〉 井手至著 『遊文録 国語学篇』 『遊文録国語史篇一・二』 二〇〇一年 九月 『国語学』 五二―三
- 〈書評と紹介〉 乾善彦著 『漢字による日本語書記の史的研究』 二〇〇四年 三月 『日本歴史』 六七〇
- 〈書評と紹介〉 桑原浩子著 『正倉院文書の国語学的研究』 二〇〇七年 二月 『日本歴史』 七〇六
- 〈書評〉 小谷博泰著 『木簡・金石文と記紀の研究』 二〇〇八年 七月 『日本語の研究』 四―三

〔単行本〕

- 新編 国語の文法 一九八二年 四月 明治書院(分担執筆)
- 新編 国語の文法 指導参考書 一九八二年 四月 明治書院(分担執筆)
- 東寺観智院金剛藏聖教の概要 一九八六年 三月 京都府教育委員会(「惠果碑文」ほかの項目執筆)
- 高山寺善本図録 一九八八年一二月 東京大学出版会  
(「宋版宝蔵和尚伝」ほかの項目執筆)
- 日本語教師読本シリーズ二〇 第五回日本語教育能力検定試験直前対策  
一九九一年一〇月 アルク(「日本語史・日本語学史」の項目執筆)
- 国語指導書 一九九九年 三月 三省堂(執筆協力)

その時歴史が動いた 三 二〇〇〇年一二月 KTC中央出版〔日本書紀〕ほかの項目執筆  
新版色道大鏡 二〇〇六年 七月 八木書店(索引共編)

〔雑誌その他〕

日本語の文字

一九八六年一〇月 『立教』一一九

縦書き・横書き

一九九〇年一一月 『三省堂ぶっくれっと』八

古代語の世界 近代語の世界

一九九二年 五月 『立教』一四一

古典語の参考文献

一九九四年 五月 『日本語学』臨時増刊号「論文・レポートの書き方」

明治書院

〈ことばの研究会自己紹介〉語彙・辞書研究会

一九九五年 四月 『日本語学』一四一四

展示批評 「仮名」とテーマづける意味

一九九六年一一月 『歴博』七九

上代の人名はどのように呼んだらよいのか

一九九七年 七月 『国文学』解釈と教材の研究』四二一八

(古代文学の常識Q&A)

〈座談会〉ことばを文字で考える

二〇〇一年 四月 『悠久』八五(特集…辞書)

「コミュニケーション」とティーチングアシスタント 二〇〇一年 九月 『大学教育研究フォーラム』

(立教大学全学共通カリキュラム運営センター編) (エッセー) TA制度の利用——全カリ講義授業の場合)

万葉歌の表記と万葉仮名

二〇〇三年 九月 企画展図録『万葉漫遊〜埼玉万葉文学史〜』

古音雑感

二〇〇三年一〇月『新日本古典文学大系』月報九九 岩波書店

史料・文献紹介『和名類聚抄』

二〇一〇年 六月『歴史と地理』六三五・『日本史の研究』二二一八

山川出版社

漢字と日本語・日本語教育

二〇一一年 三月『大衆文化』六

TBSニュースバードHD「あなたの日本語大丈夫？」

二〇一三年一〇月一日一五・〇〇から一五・三〇（解説ゲスト出演）

漢字を手放さなかった日本語（前編）（後編）〈インタビュ〉

二〇一四年 超漢字マガジン

([www.chokanji.com/magazine/interview/16/](http://www.chokanji.com/magazine/interview/16/))

([www.chokanji.com/magazine/interview/17/3.html](http://www.chokanji.com/magazine/interview/17/3.html))

TBSニュースバードHD「あなたの日本語大丈夫？」

二〇一四年一〇月二三日一五・〇〇から一五・三〇（解説ゲスト出演）

対談（円満寺二郎氏と）

二〇一六年 二月『文化通信』

「漢字と私」インタビュ―

二〇一六年一二月 パズルメイト『学習 メイト』八

日本書紀の語法―和習―

二〇一八年 四月『日本書紀の誕生―編集と受容の歴史―』八木書店

字体・字形について思うこと

二〇一八年 三月『桐墨』第九号 大東文化大学書道研究所